

《講演》

中国における未成年者の犯罪状況の分析

——湖北省における未成年者犯罪の実態調査を もとにして——

莫 洪 憲

目次

- I 中国における未成年者犯罪の概況
 - 1 低年齢化
 - 2 教育レベルの低化
 - 3 未成年者犯罪の暴力化
 - 4 未成年者犯罪の集団化
 - 5 一人っ子による犯罪の増加
 - 6 片親の未成年犯罪者の増加
 - 7 農村出身の未成年犯罪者の増加
- II 湖北省における未成年者の違法行為・犯罪行為の現状及び特徴の分析
 - 1 湖北省における未成年者の違法行為・犯罪行為の現状
 - 2 湖北省における未成年者犯罪の特徴
 - 3 湖北省における未成年者の違法行為・犯罪行為の変化の傾向
 - 4 湖北省における未成年犯罪の原因分析
- III 中国における未成年者犯罪予防・統制のために解決すべき問題

I 中国における未成年者犯罪の概況

「未成年者犯罪」は、全世界において、薬物問題と環境汚染問題ののちに、3大社会「公害」として、つまり重大な社会問題になりました。わが国においても、未成年者犯罪は、重大な社会問題の1つであります。近年、未成年者の「違法行為」（この「違法行為」は、日本でいえば「14歳未満の触法行為」だと考えられます）。この「違法行為」と「犯罪行為」は、増加傾向に

あります。現在、わが国における18歳未満の未成年者の数は3億6千7百万人で、総人口数の3分の1を占めております。今年6月1日の「国際児童節」の前日に、最高人民検察院が発表した数値、すなわち2003年に全国検察機関によって逮捕された未成年者犯罪容疑者の数値から見ますと、逮捕された未成年者犯罪容疑者の総数は69780人で、全逮捕者総数の9.1パーセントを占めており、2002年より12.7パーセント上昇しております。そして、逮捕された未成年者犯罪容疑者の総数のうち、75.3パーセントが財産犯罪でした。

わが国における未成年者犯罪の特徴は、特に、次のように指摘することができます。

1 低年齢化

未成年の犯罪者群において、15歳から16歳の少年が、犯罪のピークの年齢にあります。同時に、未成年者の犯罪は低年齢化に向かって進展しており、近年、14歳未満の未成年者による社会的侵害行為はますます増加しております。その中で、重大な刑事事件も著しく（いちじるしく）増加しております。

2 教育レベルの低化

未成年犯罪者の80パーセントは、中学程度の教育を受けていない未成年者によるもので、そのうち、文字をほとんど読めないか、少ししか読めない未成年の犯罪者が50ないし60パーセントを占めております。そのため、そうした未成年者は、残虐な手段を取り、結果も考慮しないのです。

3 未成年者犯罪の暴力化

すなわち、強盗が明らかに増加しております。近年、全国における未成年者犯罪総数の中で、暴力犯罪が60パーセントを占めております。その暴力犯罪が、70パーセントにもなる省もありますし、さらに80パーセントの高率になる省もあります。

4 未成年者犯罪の集団化

統計によると、昨年、全国における未成年者の集団犯罪は、未成年者犯罪総数の50パーセント以上です。その中で、甘粛（かんすう）省と安徽省（あ

んきしょう）における比率は同じ54パーセントであり、さらに、山東省における比率は72.91パーセントになります。

5 一人っ子による犯罪の増加

すなわち、一人っ子の未成年者が犯罪を犯す比率が上昇しているということです。2002年、一人っ子の未成年の犯罪者は、未成年者犯罪総数の30から40パーセントを占めており、1999年と比べ、15パーセント増えております。

6 片親の未成年犯罪者の増加

片親の未成年犯罪者は、未成年者犯罪総数の12パーセント前後を占めております。

7 農村出身の未成年犯罪者の増加

農村出身の未成年犯罪者は、未成年者犯罪総数の80パーセント前後を占めております。

II 湖北省における未成年者の違法行為・犯罪行為の現状及び特徴の分析

1 湖北省における未成年者の違法行為・犯罪行為の現状

我々は、今年3月に、湖北省における2001年から2003年までの18歳未満の未成年者について、14歳未満、14歳以上16歳未満、そして、16歳以上18歳未満に分類して、違法行為・犯罪行為の実態調査を行いました。湖北省における未成年者の違法行為・犯罪行為の現状分析によって、全国の未成年者の犯罪状況が明らかになりました。

(1) 未成年犯罪者の人数状況

表1をご覧ください。

表1 未成年犯罪者総数及びその割合

年 度	未成年犯罪者数	総犯罪者数	未成年者占める割合
2001年	4975	52319	9.51%
2002年	5062	61244	8.27%
2003年	5286	52564	10.06%

公安機関に尋問を受けた（刑事犯罪者と治安管理处罰条例の違反者）未成年者割合

年 度	被尋問未成年者数 A	全省人口 総数 B	全省未成年者 総数 C	被尋問者 総数 D	A/B	A/C	A/D
2001年	12944	5974.56万	1692.00万	329477	2.17/万	7.65/万	3.93%
2002年	10920	5987.80万	1695.74万	309785	1.82/万	6.44/万	3.53%
2003年	11227	6001.70万	1699.68万	308821	1.87/万	6.61/万	3.64%

未成年犯罪者の人数比率を分析してみると、全体的に見た場合、湖北省における未成年犯罪者の人数は、波のように増減を繰り返しております。

表 2 をご覧ください。

表 2

刑事犯罪者総数	年 度		14歳以下	14-16歳	16-18歳
52319	2001年	人数	794	3419	5932
		割合	1.52	6.53	11.34
61244	2002年	人数	889	3746	6238
		割合	1.45	6.12	10.19
52564	2003年	人数	927	3478	6882
		割合	1.76	6.62	13.09

未成年犯罪者の年齢構成を分析してみると、16歳以上18歳未満の未成年犯罪者がもっとも多数を占めており、さらに、この年齢の未成年犯罪者の絶対数も絶えず増加しております。

表 3 をご覧ください。

表 3

		2001年		2002年		2003年	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
公安機関に尋問登録された未成年者	在校生	3091	25.99	3432	31.43	3357	29.90
	閑散者	8803	74.01	7488	68.57	7870	70.10

未成年犯罪者の身分構成を分析してみると、未成年犯罪者の中で最も多いのは無職の者です。

表 4 をご覧ください。

表 4

		文盲	小学生	中学生	高校生	高校生以上
2001年	人数	401	1975	7670	1419	1980
	割合	2.98	14.69	57.05	10.55	14.73
2002年	人数	1187	2046	4955	1594	1238
	割合	10.77	18.57	44.96	14.46	11.23
2003年	人数	3188	5859	1306	408	408
	割合	28.54	52.46	11.69	3.65	3.65

未成年犯罪者の教育レベルを分析してみると、未成年犯罪者の教育レベルは、「菱形（ひしがた）」の形を示しております。すなわち、2001年と2002年においては、中学校レベルの未成年犯罪者が多数を占めており、2003年においては、小学校レベルの未成年犯罪者が多数を占めております。そして、未成年犯罪者の教育レベルは、中学校レベルから小学校レベルへと次第に低下しております。

表 5 をご覧ください。

表 5

		2001年		2002年		2003年	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
公安機関に尋問登記された未成年者	男	9646	74.52	9922	90.86	10093	89.90
	女	3298	25.48	998	9.14	1134	10.10

未成年犯罪者の性別を分析してみると、未成年犯罪者の中で男性の比率が高く、さらにますます増加しております。これに対し、女性の未成年犯罪者数は比較的少ないのです。

表 6 をご覧ください。

表 6

	2001年		2002年		2003年	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
現地者	7978	61.63	8546	78.26	8439	75.11
外地者	4966	38.37	2374	21.74	2788	24.89

未成年犯罪者の居住地を分析してみると、居住地内の未成年犯罪者がほとんどを占めており、居住地外の未成年犯罪者は比較的少ないのです。

表 7 をご覧ください。

表 7

	2001年		2002年		2003年	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
治安管理处罰条例に違反した犯罪者	7969	61.57	5858	53.64	5941	52.92
	4975	38.43	5062	46.36	5286	47.08

未成年犯罪者の犯罪種類を分析してみると、未成年犯罪者が犯した治安管理处罰条例違反行為の比重がますます低下しており、通常犯罪の比重がますます増加しております。つまり、未成年者の犯罪の種類は、行政違反から通常犯罪へとますます重大なものになっております。

(2) 犯罪類型

未成年犯罪者の犯罪類型を分析してみると、2001年から2003年までの未成年犯罪者で刑罰を受けた人数は5951人で、そのうち、強盗罪で刑罰を受けた人数は3276人で、刑罰を受けた未成年者総数の55.1パーセントを占めております。全体的に見ますと、強盗、窃盗、詐欺、恐喝などの財産犯罪を犯した未成年犯罪者数は、4416人で、未成年犯罪者総数の74.2パーセントを占めております。また、殺人、傷害、強姦、略取誘拐などの人身犯罪を犯した未成年犯罪者数は、963人で、未成年犯罪者総数の16.2パーセントを占めております。

(3) 処遇の類型

表 8 をご覧ください。

表 8

年 度		提訴された未成年者数/総数	刑事処罰に未提訴された未成年者数/総数	刑罰を受けた未成年者数/総数	刑罰を受けた未成年者数の内執行猶予者数/刑罰を受けた総数
2001年	人数	1692/24609	12/378	1759/22283	287/1759
	割合	6.88%	3.17%	7.89%	16.32%
2002年	人数	1922/23191	14/357	1883/20323	397/1883
	割合	8.29%	3.92%	9.27%	21.08%
2003年	人数	2650/21793	17/359	2309/20356	519/2309
	割合	12.16%	4.74%	11.34%	22.48%

未成年犯罪者の処遇の類型を分析してみると、未成年犯罪者総数が増加しているとともに、公訴提起により刑罰を受ける未成年犯罪者の比率がますます上昇しております。そして、刑罰を免れたり執行猶予になる未成年犯罪者の比率もますます上昇しております。

未成年犯罪者に科せられる刑罰の種類を分析してみると、未成年犯罪者には3年以下の懲役が科されることがもっとも多いのです。具体的な刑罰の種類を見えますと、2001年から2003年までの未成年犯罪者に科された刑罰の種類は、「管制（保護観察、プロベーション）」と「禁錮」とを併せて400人であり、未成年犯罪者総数の6.7パーセントを占め、禁錮及び執行猶予付き3年以下の懲役を科せられた未成年犯罪者数は1203人で、未成年犯罪者総数の22.22パーセントを占めております。さらに、3年以下の懲役を科された未成年犯罪者数は2783人で、未成年犯罪者総数の46.77パーセントを占め、3年以上の懲役を科された未成年犯罪者数は1491人で、未成年犯罪者総数の25.05パーセントを占めております。そして、無期懲役を科された未成年犯罪者数は33人で、未成年犯罪者総数の0.55パーセントを占めております。

2 湖北省における未成年者犯罪の特徴

湖北省における2001年から2003年の未成年犯罪を調査・分析したところ、次のような新しい特徴が見られました。

(1) 第1に、未成年者の違法行為・犯罪行為の形態から見ると、集団性と暴力性が強く見られることであります。

統計資料を見ますと、集団の形態で遂行される未成年者犯罪はますます増加しております。2001年から2003年の未成年犯罪における共同犯罪と集団犯罪の人数は4719人で、全共同犯罪と集団犯罪者総数の13.45パーセントを占めております。しかも、この比率は、未成年犯罪者総数の3分の2を占めており、その比率は相当に高いと考えられます。未成年者による集団犯罪はますます突出してきており、組織的な集団化の傾向が進展しております。

(2) 第2に、未成年者の違法行為・犯罪行為の主体構成から見ると、低年齢化の傾向が突出し、また再犯率が比較的高いことであります。

湖北省における2001年から2003年の未成年犯罪者の年齢構成から見ると、16歳以上18歳未満の未成年犯罪者の人数がもっとも多く、総人数は19052人で、犯罪者総数の54.3パーセントを占めております。すなわち、この年齢段階にある未成年者がもっとも犯罪を犯しやすい年齢であります。14歳以上16歳未満の未成年犯罪者の人数は10643人で、犯罪者総数の30.3パーセントを占めております。さらに注目すべきなのは、14歳未満の未成年犯罪者の人数は年々増加していることです。すなわち、14歳未満の未成年犯罪者の人数は、2001年が794人で、犯罪者総数の6.13パーセント、2002年がさらに急激に増加して889人で、犯罪者総数の8.14パーセントにもなり、2001年よりも2.0パーセント増加し、2003年がさらに927人になり、犯罪者総数の8.26パーセントを占めております。

「中国青少年犯罪研究会」の統計資料によりますと、わが国における未成年者の初犯年齢（初めて犯罪を犯す年齢）は、現在、1970年代よりも2、3歳若年化しております。我々の調査した事件の中で一番初犯年齢が低かったのは8歳でした。

湖北省における調査・統計を分析してみると、初犯の未成年犯罪者は犯罪者総数の58.7パーセントを占めており、三犯以上（3回以上犯罪を犯した）の未成年者犯罪者は、犯罪者総数の23.3パーセントを占めております。

(3) 第3に、未成年者の違法行為・犯罪行為の主観面から見ると、その動機・目的が無く、情緒的な傾向が著しく、突発性が強く見られることであります。

湖北省における未成年犯罪の統計資料を分析しますと、「一時的な衝動」に駆られて違法行為・犯罪行為を行う未成年犯罪者の人数は、未成年犯罪者総数の34パーセントを占めており、また、「法律の不知」のために違法行為・犯罪行為を行う未成年犯罪者の人数は、未成年犯罪者総数の33.7パーセントを占めております。

(4) 第4に、未成年者の違法行為・犯罪行為の侵害客体から見ると、知らない者同士が最も多く、また、成人や同じ位の年齢の者が多く見られることであります。

我々のアンケート調査を分析したところ、未成年犯罪者の侵害客体数のうち61.7パーセントは知らない人でした。また、家族構成員はわずか3.3パーセントにすぎず、知人は17.7パーセントで、さらに、顔を見たことがある人は17.3パーセントを占めておりました。

なお、我々のアンケート調査に答えた未成年犯罪者によると、成人を侵害客体に選んだ比率は46.6パーセントで、同じ位の年齢の者を選んだ比率は36.7パーセントで、老人を侵害客体に選んだ比率はわずか2.6パーセントでした。成人、同じ位の年齢の者あるいは老人のいずれでもよいを選んだ比率は14.1パーセントでした。

(5) 第5に、未成年者の違法行為・犯罪行為の犯行場所の選択については、特に特定されないで、偶然性が比較的高いことであります。

我々のアンケート調査を分析したところ、未成年者の違法行為・犯罪行為の犯行場所について、偶然に選択された場所の比率は42.3パーセントで、人に見られない死角となる場所の比率は26.9パーセントで、人の集まる場所の

比率は21.9パーセントです。

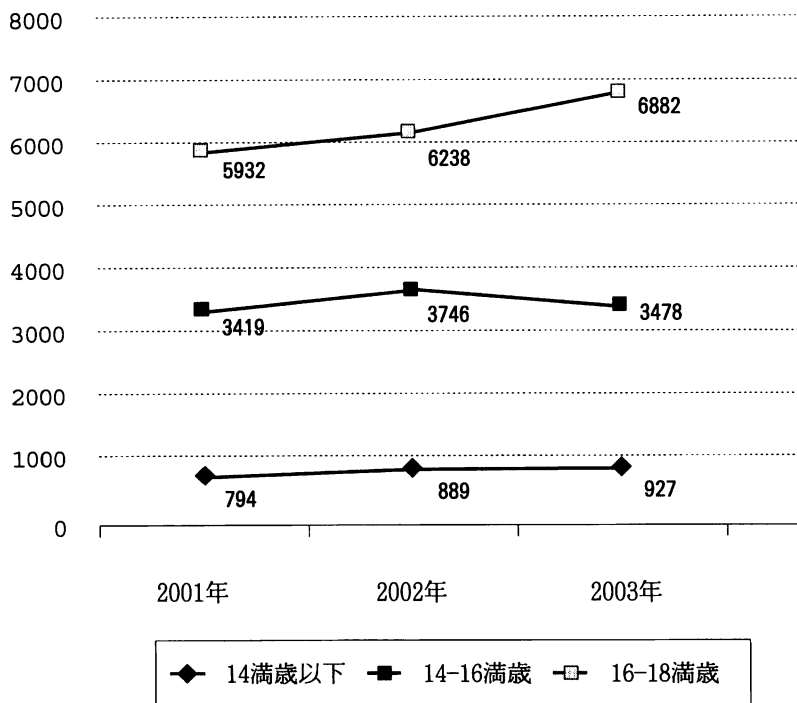
3 湖北省における未成年者の違法行為・犯罪行為の変化の傾向

以上お話した5つの特徴をもとにすると、次に述べるように、湖北省における未成年者の違法行為・犯罪行為の変化の傾向が見て取れます。

(1) 第1は、年齢構成の重点の低下であります。

表9をご覧ください。

表9



この、いわゆる年齢構成の重点の低下とは、未成年者の違法行為・犯罪行為の低年齢化の方向に向かっていっそう進行していることを意味しております。全犯罪者の年齢構成から見ると、低年齢の者はますます増加しており、

未成年犯罪の問題はますます突出してきているのです。また、未成年犯罪者の年齢構成から見ると、初犯の年齢がますます若年化しております。

(2) 第2は、犯罪手段の暴力性の激化であります。

事例を挙げたいと思います。2003年2月16日の夜9時ごろ、大悟という県の「王某」という被害者（男性で16歳）は、インターネット・バーに行く途中で、無職の5人連れ（男性で15、16歳）に脅迫されて金銭を喝取（かっしゅ）され、殴打されたあと、一旦別れたが、被害者が学校に戻る途中をさらに追跡されて、着ていたコートを脱がされ、橋の上から大きな深い川に突き落とされて、溺死（できし）しました。

(3) 第3は、組織形態の一層の緊密化であります。

未成年者の心身はまだまだ完全に成熟していませんし、独立心にも差があり、依赖性・依存性も強く、抵抗力も弱いために、単独で犯罪計画を立て実行することは困難です。そのため、未成年犯罪の集団化の傾向が強くなっております。湖北省の「高等人民法院」の統計資料によりますと、湖北省集団犯罪の未成年者の数は、2002年が529人で、2003年は580人に増加しております。

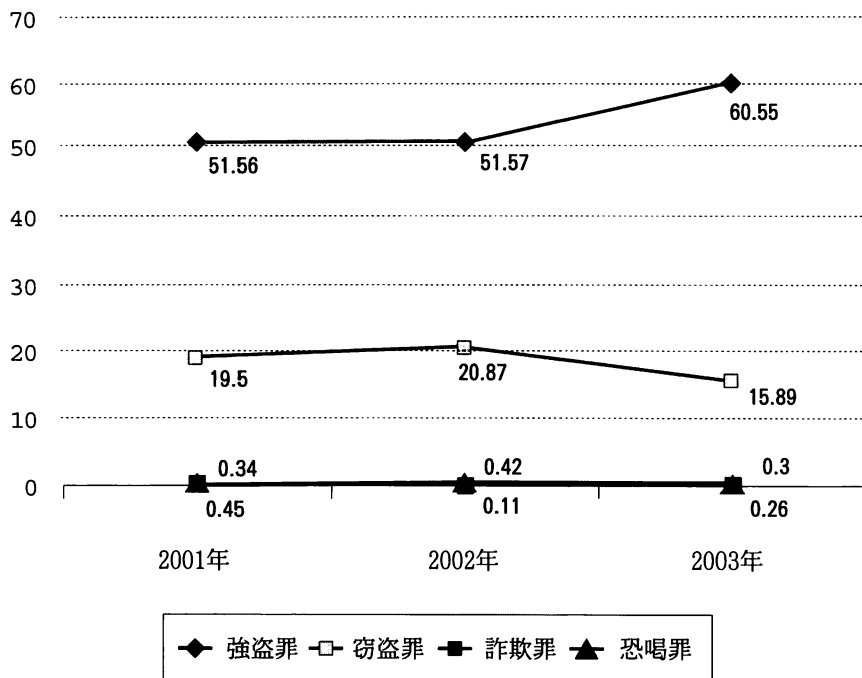
(4) 第4は、犯罪類型の多様化であります。

2001年から2003年まで、湖北省における未成年犯罪類型の分析によりますと、現在の未成年犯罪類型は、以前の伝統的な犯罪類型に限定されないで、多くの種類の犯罪類型にわたる傾向が強くなっております。近年、未成年者による児童に対する強制わいせつ、恐喝、騒乱、身代金拐取、薬物取引、強制売春など、以前であれば成人の犯罪であったものが、未成年者によって行われる悪質な犯罪となっております。未成年犯罪者は、便利な交通手段や通信手段を用いて、テレビや映画に映し出される映像を模倣して、大胆にも犯罪を行っています。

(5) 第5は、暴力による財産犯罪が、未成年犯罪のうち最も多い犯罪であります。

表10をご覧ください。

表10



2001年から2003年まで、湖北省における未成年犯罪の統計によりますと、各種の財産犯罪の変化において、暴力による財産犯罪の数が最も多く、その中で強盗罪の発生率が最も高いので、比率も一番高く、なおも上昇傾向にあります。強盗罪の未成年犯罪者は、2001年は907人で、未成年犯罪者総数の51.56パーセント、2002年は971人で、未成年犯罪者総数の51.57パーセント、2003年は1398人で、未成年犯罪者総数の60.55パーセントにもなります。

4 湖北省における未成年犯罪の原因分析

(1) 未成年犯罪の個人的原因

湖北省における未成年犯罪の実態調査と分析によりますと、未成年犯罪の

原因は個人、家庭、学校及び社会に分けることができます。

① 未成年犯罪の心理的原因

未成年者の違法行為・犯罪行為の原因は多様に考えられますが、最も直接的原因は、未成年犯罪者の心理的要素・性格上の特徴などの主観的要素の影響によるものと考えられます。調査結果から見ると、未成年者自身の個性の抑圧、反抗期の心理、閉鎖的心理、仲間集団の心理は、未成年犯罪における心理的な原因であります。

i) 個性抑圧による未成年者犯罪への影響

未成年犯罪者と普通の未成年者の性格を比較すると、未成年犯罪者は、内向的な性格で、他人とつきあいが少なく、そして虚弱な心理の者が多いのです。

ii) 反抗期心理による未成年者犯罪への影響

未成年犯罪者と普通の未成年者を比較すると、未成年犯罪者の価値観は、普通の未成年者の価値観に比べ、社会通念からより逸脱しているのです。

iii) 閉鎖的心理による未成年者犯罪への影響

未成年犯罪者と普通の未成年者を比較すると、自分の抱える秘密事項にどう対処するかについて、未成年犯罪者も普通の未成年者も、第1は「友達に相談する」、第2は「誰にも言わないで秘密にする」、第3は「親に相談する」、となっています。

iv) 仲間集団の心理による未成年者犯罪への影響

未成年犯罪者と普通の未成年者を比較すると、未成年者には閉鎖的な心理があるので、未成年犯罪者も普通の未成年者も、交際する仲間や感情依存の対象は同年齢の者であります。

② 規範意識の鈍麻

未成年犯罪者の中で、教育レベルの低さと規範意識の鈍麻とは、共通した特性であります。「未成年者權益保護法」及び「未成年犯罪防止法」を知らない、あるいは名前だけしか知らない未成年犯罪者の比率は、普通の未成年者よりきわめて高い比率です。

③ 未成年者の自己保護意識の薄さ

調査結果によると、未成年者は、自分を守ろうとする意識が希薄です。すなわち、自分の權益を認識していませんし、法律的な手段によって自分の權益を保護することができません。そのため、自分の權益を保護しようとするためには違法な手段によるので、被害者から加害者へと変わってしまうのです。

(2)未成年犯罪者の家庭的原因

調査結果によりますと、未成年犯罪発生 of 家庭的原因は、主に、次のような2つの家庭教育の原因と2つの家庭環境の原因から考えることができます。

① 第1は、欠陥のある家庭教育です。

家庭教育の欠陥は、次の2つの形態で表れます。1つ目は、親が子どもの知的能力だけを重視して、子どもの道徳的資質を重視しないというものです。2つ目は、親の教育が言葉だけに終わり、行動を伴わないというものです。

成年犯罪者と普通の未成年者を比較すると、未成年犯罪者の方が、普通の未成年者の場合よりも、親からの教育・指導が少ないことが分かります。

未成年犯罪者と普通の未成年者を比較すると、未成年犯罪者の方が、普通の未成年者の場合よりも、親に対する評価が低いことが分かります。

② 第2は、不適切な親の教育方法です。

親の教育方法の不適切さにより、家庭教育の機能が失われております。

③ 第3は、不良な家庭環境です。

i) 愛情欠乏型の家庭

未成年犯罪者と普通の未成年者を比較すると、未成年犯罪者の方が、普通の未成年者の場合よりも、親が離婚したりして家族関係が良好でない家庭が多いのです。片親の家庭及び家族関係が良好でない家庭では、未成年者の成長環境は、普通の未成年者の場合に比べ、良好ではないので、残虐性・暴力性・過敏性、自己中心性及び攻撃性などの性格が育成されやすいのです。

ii) 溺愛型の家庭

未成年犯罪者と普通の未成年者を比較すると、未成年犯罪者の方が、普通

の未成年者の場合よりも、親からの愛情が過多の家庭が多いのです。このような家庭においては、子どもの生活消費と物質要求は制限されないで、子どもは自己中心的な性格になってしまい、自分の要求が家庭で充足されないと、違法な手段を使って社会にまで拡大していくことになるのです。

④ 第4は、家庭の悪い経済状況です。

未成年犯罪者と普通の未成年者を比較すると、未成年犯罪者の方が、普通の未成年者の場合よりも、経済状況の悪い家庭が多いのです。未成年犯罪者のこづかいは、101元以上200元未満、及び、200元以上の比率が、普通の未成年者の場合よりも高いのです。高い消費傾向と消費競争の時代においては、家庭環境が良好な未成年者であっても犯罪者になりやすいのです。

(3) 未成年犯罪者の学校面での原因

未成年犯罪者と普通の未成年者を比較すると、未成年犯罪者の方が、普通の未成年者の場合よりも、「不良生徒」が多く見られます。この「不良生徒」に対しては、学校側は、体罰、学校からの罰金、強制退学、放置などの教育方法を取ることが多いので、この「不良生徒」は、学校・先生及び社会に対する強い反発心を持つことになります。この「不良生徒」は、自分に「不良」というラベルを貼られることによって自暴自棄となり、反社会的な性格になってしまうのです。未成年犯罪者と普通の未成年者を比較すると、未成年犯罪者の方が、普通の未成年者の場合よりも、学校生活への興味は薄く、教師に対する彼らの印象は悪いのです。

(4) 未成年犯罪者の社会面での原因

① 第1は、不良文化の影響です。

未成年犯罪者と普通の未成年者を比較すると、未成年犯罪者の方が、普通の未成年者の場合よりも、アクション映画や暴力団映画が好きで、また、暴力団組長や億万長者へのあこがれが強いのです。未成年犯罪者に対しては、主に暴力文化や性風俗文化などの不良文化の影響が強いのです。

② 第2は、不良社会による誘因の影響です。

未成年犯罪者と普通の未成年者を比較すると、未成年犯罪者の方が、普通

の未成年者の場合よりも、インターネットバーやゲームセンターに過ごす時間が長く、サイバー・ポルノを見る機会が5倍にもなっています。そのサイバー・ポルノ、自殺のホームページや賭博のホームページからのメッセージは、未成年犯罪者に対して、きわめて悪い影響を与えています。さらに、未成年者に対してインターネットの世界からの悪い影響、及び、インターネット利用に関連して発生した犯罪の問題は、無視できない状況になっております。

③ 第3は、社会的コントロールの低下です。すなわち、無職の未成年者、住所不定の未成年者、触法未成年者に対する社会的コントロールが弱く、つまり、未成年者の社会的行動に対する社会的コントロールが弱くなっているのです。

Ⅲ 中国における未成年者犯罪予防・統制のために 解決すべき問題

湖北省における未成年者犯罪の原因についての分析結果については、学界の中での結論は同じであります。すなわち、未成年犯罪の原因は、主に、家庭、学校及び社会にあるのです。では、なぜ家庭、学校及び社会が未成年犯罪の原因になるのでしょうか。この問題についての研究は、必ず1つの問題と関連しております。すなわち、それは、未成年者の権利保護の問題であります。未成年者の違法行為・犯罪行為は彼らの権利の侵害と密接に関わっていると我々には思われます。未成年犯罪者は、破綻家庭の被害者であり、学校の「不良生徒」であり、さらに、社会の不良環境の犠牲者であります。このような視点からみると、未成年犯罪者に対して処罰よりも保護の方が、社会にとって効果があると思われます。

通訳：国土館大学訪問研究員・王 充 氏